

# 防潮堤を勉強する会

## 気仙沼市長への質問(上)

気仙沼市民有志による「防潮堤を勉強する会」は18日、勉強会で分かった課題をまとめて菅原茂市長に質問した。地域の将来を左右する重大な決断が迫られる中、菅原市長の発言要旨を3回に分けて紹介する。

「もっと積極的に住民の意見を防潮堤計画(特に高さ)に反映させる必要がある」と思うが。

昨年9月に計画高が示され、復興計画にも盛り込む段階から、市民の理解を得るのは容易ではないと考えた。国県の担当者には、各浜で十分に説明するように再三伝えてきた。市民の皆さんも説明会や意見交換会に積極的に参加し、一緒に考えてもらいたい。

国の中央防災会議

「住民合意に市は積極的に関与すべきだ」という声があるが。

「何を持って合意と判断したら良いのか。合意形成に努力する過程で、双方の考え方を尊重しながら何らかの成果を得ようとする姿勢が大切だ。そうでないと話し合いにならない。」

「出席して、問題があれば国・県に改善を掛けたい。」

「守るべきものは何か、背後の土地がどうなっているのか」を考えるスリージに入っている。いい例ではないが、今はレベル1堤防にレベル2津波を掛けて災害危険区域を指定している。その逆さまからアップ

「防潮堤計画における市の役割と権限は。市管理の防潮堤は市が計画する。復興に当たっては自腹で

「高さについて県に提案することはあり得るが、今のところは変更には合理的理由がある箇所はない。高さの変更の可能性は「代替方法があれば」として復興計画に盛り込んだが、湾口防波堤は導入すべきではないと思う。気仙沼湾は浅く、湾内の海水の体積は小さい。湾口防波堤によって養殖漁場の水質を悪化させてはならない。取り返しのつかないことになる。」

## Q 高さの選択肢がほしい

## A 原形復旧へ変更あり得る

「積極的な動きが見られず、市が音頭をとって地区ごとに市民説明会・意見交換会を開いた。市の漁港分は今月末から始まる漁業集落防災機能強化事業の説明会の中で再度意見交換し、整備に向けて進みたい。国・県の説明会にも必ず市職員

に積極的な動きが見られず、市が音頭をとって地区ごとに市民説明会・意見交換会を開いた。市の漁港分は今月末から始まる漁業集落防災機能強化事業の説明会の中で再度意見交換し、整備に向けて進みたい。国・県の説明会にも必ず市職員

複数の案を出すことが近道になるケースもあり、なるべく出していく姿勢が必要だ。

「高さの協議事項としてみたい。国・県の説明会にも必ず市職員

「高さの協議事項としてみたい。国・県の説明会にも必ず市職員

「高さの協議事項としてみたい。国・県の説明会にも必ず市職員

2012年  
10月26日付  
三陸新報  
3面